

北海道浮魚ニュース

平成 23 (2011) 年度 20 号

2011 年 11 月 16 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

道南太平洋での 11 月調査のスルメイカ分布密度は過去同時期に比べ低く、海域全体の魚体サイズは昨年と同程度であった。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2011 年 11 月 7 日 ~ 11 日
- ・ 調査海域 : 道南太平洋、津軽海峡

昨年 (2010 年 11 月 11 日 ~ 12 日) のデータと比較しました。

1 . 水温 (図 1、 2)

漁獲調査点 4 地点のうち、昨年海洋観測を行った 2 地点の水温は、木直沖 St.1 が表面 14.0 (昨年 13.4)、水深 50m 層 12.9 (昨年 13.7)、函館沖 St.16 が表面 16.2 (昨年 15.3)、水深 50m 層が 12.2 (昨年 15.3) でした。他の 2 地点では下北半島東沖

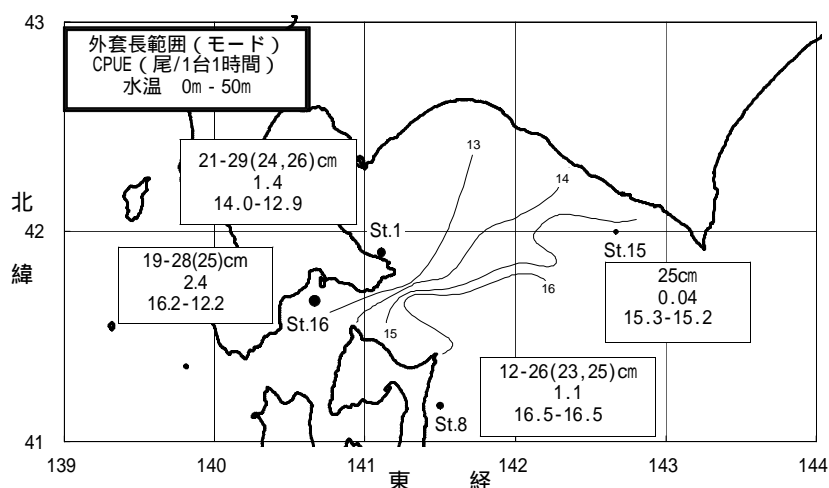


図 1 2011 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 7 ~ 11 日、金星丸)
は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

St.8 が表面 16.5、水深 50m 層 16.5、浦河沖 St.15 が表面 15.3、水深 50m 層 15.2 でした。海域全体の海洋観測結果では、水深 50m 層の水温は、津軽海峡東口から浦河沖にかけて高く、胆振海域から渡島太平洋沿岸にかけて低くなっていました。

2 . 分布密度 (図 1、表 1)

漁獲調査点 4 地点のうち、昨年漁獲調査を行った木直沖 St.1 の CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 1.4 で、昨年の同一地点での値 (15.0) を下回りました。最も CPUE が高かったのは函館沖 St.16 (2.4) で、海域全体の CPUE の平均は 1.2 でした。魚群の分布密度は過去同時期の調査と比較して海域全体で低く、例年秋以降に道東方面から来遊する南下群の到達が遅れているものと考えられます。

表1 2011年及び過去5年の各調査地点のCPUEと海域全体の魚体サイズ組成。2008年以前は10月にSt.16を除く3点での調査。2008年は荒天のため漁獲調査中止。

	2006(H18) 10/26-10/27	2007(H19) 10/24-10/26	2008(H20) 10/27-10/31	2009(H21) 11/9-11/11	2010(H22) 11/11-11/12	2011(H23) 11/7-11/11
St.1(木直沖)CPUE	4.0	3.8	-	1.2	15.0	1.4
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	-	-	-	-	1.1
St.15(浦河沖)CPUE	-	0	-	8.1	-	0.04
St.16(函館沖)CPUE	-	-	-	-	-	2.4
平均CPUE(尾/台・時間)	4.0	1.9	-	4.6	15.0	1.2
外套長の範囲(cm)	13-23	20-27	-	16-30	17-30	12-29
外套長モードの範囲(cm)	17	23	-	24	24,26	24-26

3. スルメイカの大きさ(図1、2、表1)

漁獲されたスルメイカの外套長は12～29cm(昨年17～30cm)の範囲にありました。調査海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は25cm(昨年24cmと26cm)で、全体的な魚体サイズは昨年と同程度でした。

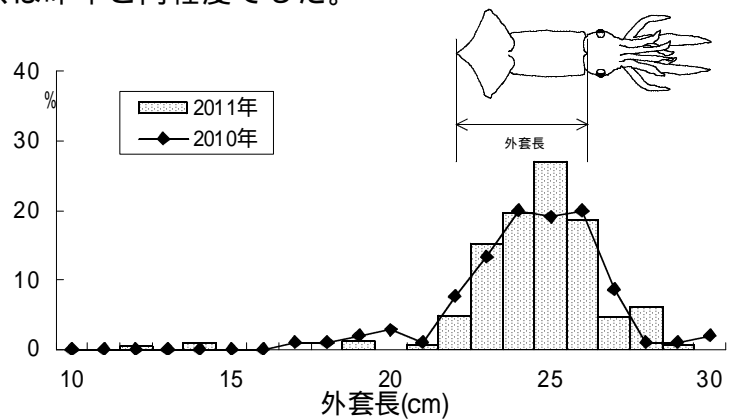


図2 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

(文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991)